

一般質問

氏名	質問の要旨
石橋 忠敏	1 花宗川新橋水門強制排水ポンプについて 2 24年度目玉事業のあり方について
川野栄美子	1 まちづくりと情報の共有について 2 大川市教育振興について
古賀 龍彦	1 中学校の武道必修化について 2 生活支援バスについて
岡 秀昭	1 中学校における学校適正配置計画について
石橋 正毫	1 新橋川改修計画について
箴島かおる	1 伝統的町並みの保存について (小保・榎津地区) 2 ふくおか・まごころ駐車場（パーキングパーミット）制度について
永島 守	1 議会と行政Ⅱ



花宗川新橋水門強制排水ポンプについて
石橋 忠敏 議員

問

花宗川新橋水門強制排水ポンプの設置は、反対ではなく、本市にとっては絶対必要であるが、その排水ポンプ場設置計画の内容が本当に大川市民を水害から守るための事業なのか疑問を感じる。

国県が設置した他の地域と比較してみると、他の排水場のポンプの能力は排水量に対して3分の1程度の能力があり、これに対して、新橋ポンプ場のポンプ能力は排水量に対し、29分の1程度の能力しかない。このまま事業がなされれば、防災どころか、有事の際には三又地区はもちろん大川市全域が人災的な大水害になりかねない。

よって、本市行政は市民の生命、財産を守るべき、内容のある防災事業を国に対し強く要望すべきと思うが、このことについて伺いたい。

答

新橋川水門の排水ポンプの設置は、本市としても、長年の懸案事項であり、国県に対し繰り返し要望を行ってきたが、やっと国の扉が開き排水ポンプの設置が決定した。

ポンプの規模、能力は、事業主体である県が国と協議を行い、設定されたと承知している。



まちづくりと情報の共有について、大川市教育振興について
川野栄美子 議員

問

市報に関し、読んでいる市民の割合、発行部数及び発行回数を2回から1回に変更する件、並びに隣組未加入の世帯数、未加入者の解決策について伺いたい。

答

市報は市民アンケート調査で、およそ80%の市民が目を通している。発行部数は24年度で1回当たり1万3千800部程度である。

市報の発行回数を月1回に変更してはとの声はあるが、1世帯当たり月に12円程度であり経費削減に直結しない。また隣組未加入世帯数は、24年4月末現在で508世帯であり、今後庁内でプロジェクトチームを立ち上げ、近隣自治体の状況や仕組みづくりを考えたい。

問

学校支援ボランティア数を伺いたい。

答

毎年1千400人余り登録し、登下校時の交通指導を初め、挨拶や言葉かけをしている。

問

21年度からの県委託事業である通学合宿の支援は、引き続き市で行うのか伺いたい。

答

大変良い事業と思うので、予算面で県が立ちいかなくなれば、大川市独自で行いたい。

問

県事業の小学生読書リーダー養成講座は引き続きされるのか伺いたい。

答

まず、25年度まで開催してみ、事業内容を検証等しながら検討したい。